中日新聞
2019年（令和元年）11月28日（木曜日）

教えて！ドクターQ&A

㈱宣通 (052)979-1600 広告

Q 40代主婦です。3か月前に天井がグルグル回るめまいに襲われました。耳鼻咽喉科を受診し薬をもらいましたが、今でも姿勢をかえたり、外に出たりするとめまいがひどく、まっすぐに歩くこともできません。脳神経外科を受診し頭部のMRI、MRA検査を受けましたが、異常はないと言われました。耳鼻咽喉科では、もう異常はないので薬は飲まなくてよいと言われました。原因がわからず、このまま治らないのではないかと不安です。

A 急性発症の回転性めまいは、その多くが末梢性の前庭機能障害によるものです。耳石障害による良性発作性頭位変換めまいが代表的です。通常は数日で改善しますが、症状が続く場合は頭部MRI、MRAを行うことが必要です。この方のようにMRI、MRAで異常がなく、前庭機能が改善している場合、中枢性に機能不全を生じている病態が考えられます。持続性知覚性姿勢誘発めまい（PPPD）として最近報告された新しい疾患です。PPPDには、ある種の抗うつ剤、前庭リハビリテーション、認知行動療法が有効とされています。症状を早く治すためにも、めまい診療の経験が豊富な医師の診療を受けることを勧めます。

院長 酒井 直人
（サカイ脳神経外科）

日本脳神経外科学会認定専門医
浜松医科大学卒業　浜松医科大学脳神経外科入局
浜松医療センター、聖隷浜松病院、御前崎総合病院、浜松医科大学を経て、平成28年浜松市中区にサカイ脳神経外科開院　現職
頭痛、めまい、物忘れの診療に加えて、脳卒中後遺症、パーキンソン病、難治性めまいのリハビリテーションに取り組んでいる